山城北保健所管内の感染症発生動向調査

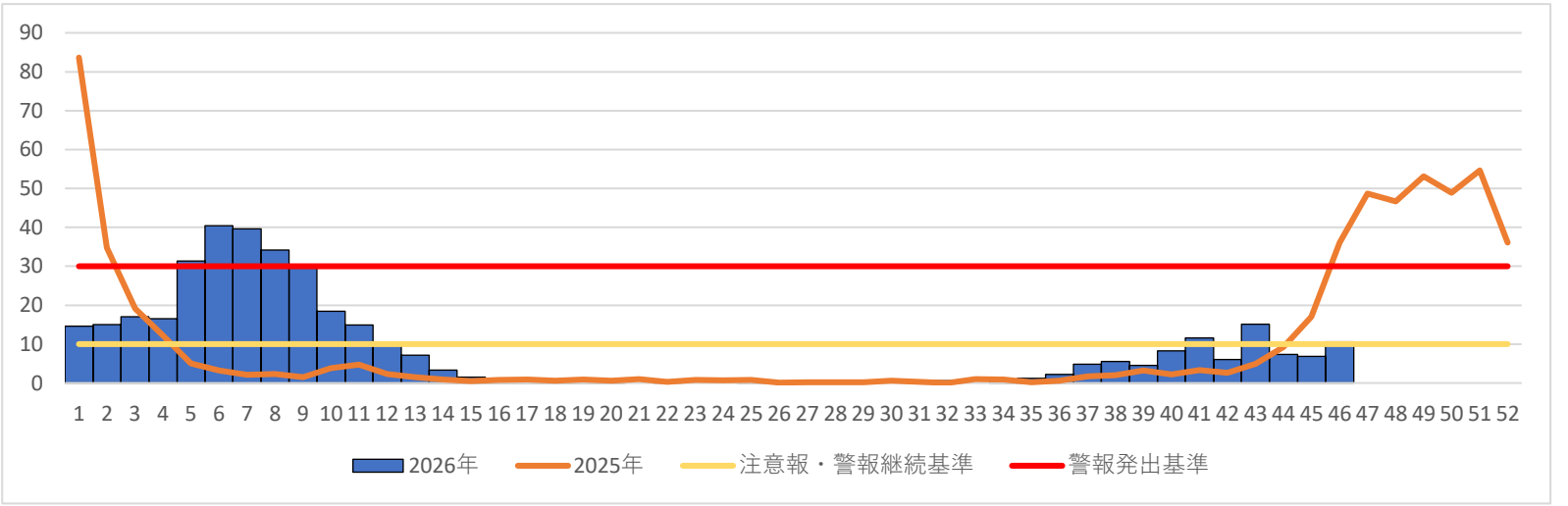
（ARI定点、小児科定点、眼科定点、全数報告）

2026年　第46週　　令和8年11月9日～令和8年11月15日

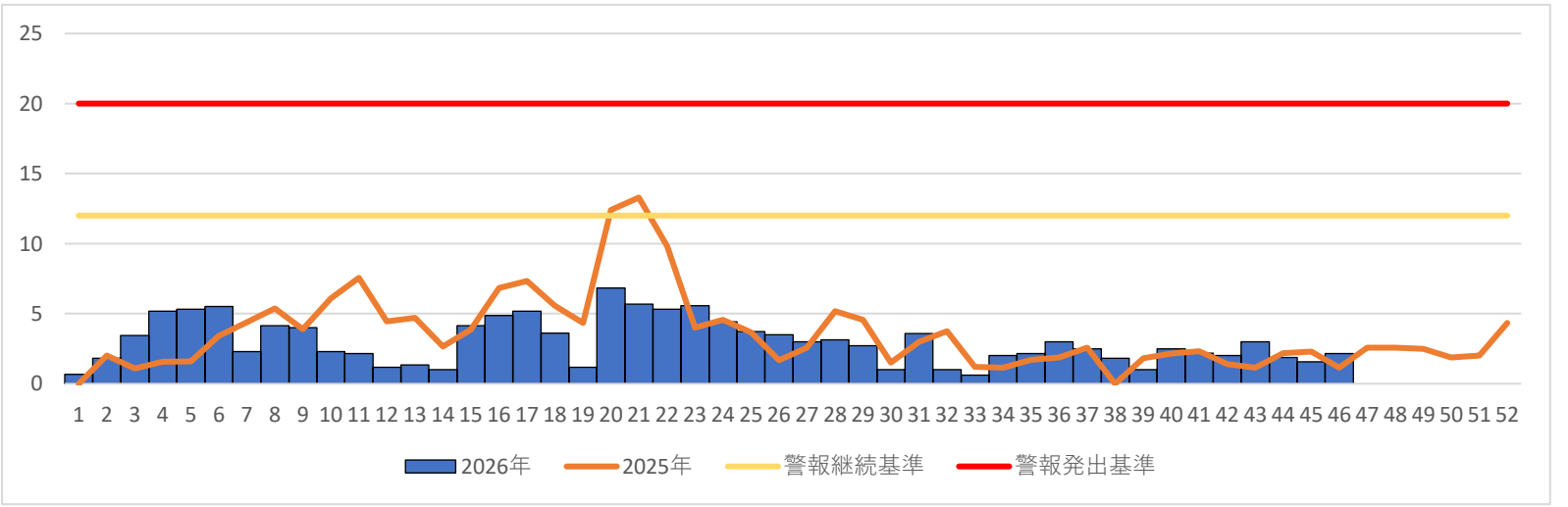
今週のコメント

○「インフルエンザ」の定点当たりの報告数は、10.60（45週6.80、44週7.30）と注意報レベルです。予防のため帰宅時や食事前に手洗いをしましょう。
○「感染性胃腸炎」の定点当たりの報告数は、2.14（45週1.57、44週1.86）と増加傾向です。
○「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」の定点当たりの報告数は、2.14（45週2.00、44週1.57）と横ばいです。
○「咽頭結膜熱」の定点当たりの報告数は、1.57（45週1.57、44週3.14）と横ばいです。

インフルエンザ（定点把握疾患）山城北保健所管内週当たり報告数



感染性胃腸炎（定点把握疾患）山城北保健所管内週当たり報告数



定点把握疾患　＜特定の医療機関（定点医療機関）を定め、その医療機関を受診した患者の数を基に、流行状況を把握＞

疾患名	定点あたりの報告数（前週比）	疾患名	定点あたりの報告数（前週比）
インフルエンザ	10.60（1.56）	手足口病	—　（0.00）
新型コロナウイルス感染症	0.60　（0.55）	伝染性紅斑	—　（0.00）
RSウイルス感染症	0.43　（0.30）	突発性発しん	0.29　（0.00）
咽頭結膜熱	1.57　（1.00）	ヘルパンギーナ	0.43　（0.00）
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.14　（1.07）	流行性耳下腺炎	—　（0.00）
感染性胃腸炎	2.14　（1.36）	急性出血性結膜炎	—　（0.00）
水痘	0.57　（1.00）	流行性角結膜炎	—　（0.00）

定点あたりの報告数＝１週間の報告件数／定点数

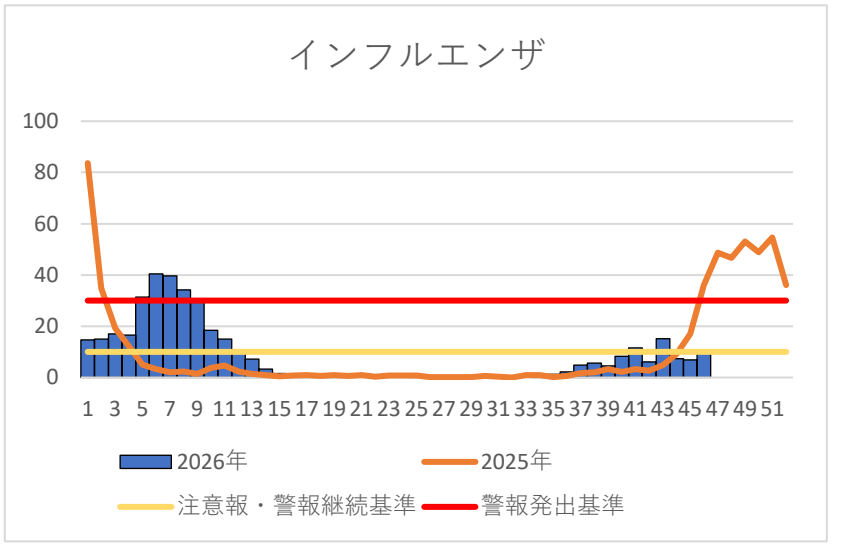
全数把握疾患　＜全ての医療機関から医師の届出が義務付けられている感染症＞

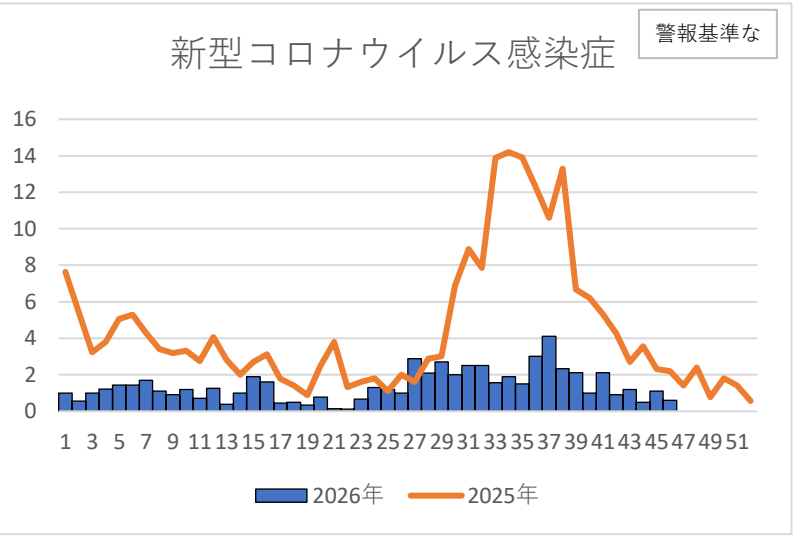
分類	報告
１類感染症	報告なし
２類感染症	結核2件
３類感染症	報告なし
４類感染症	報告なし
５類感染症	報告なし

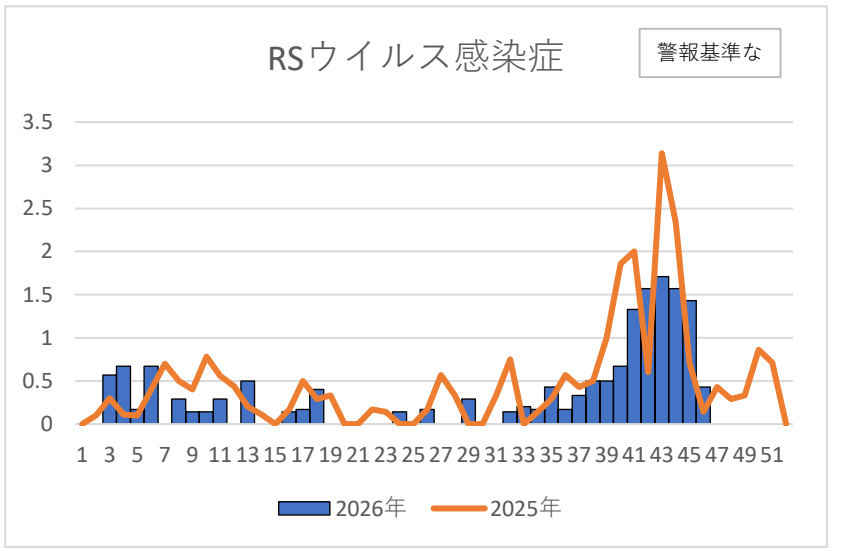
※このデータは速報値であり、今後変更等が行われる可能性があります。ご了承ください。

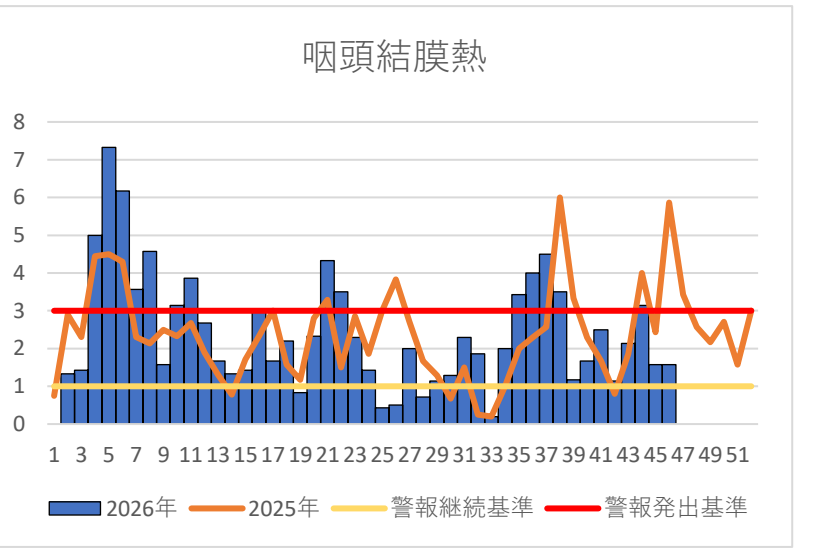
参考：京都府感染症情報センター　https://www.pref.kyoto.jp/idsc/

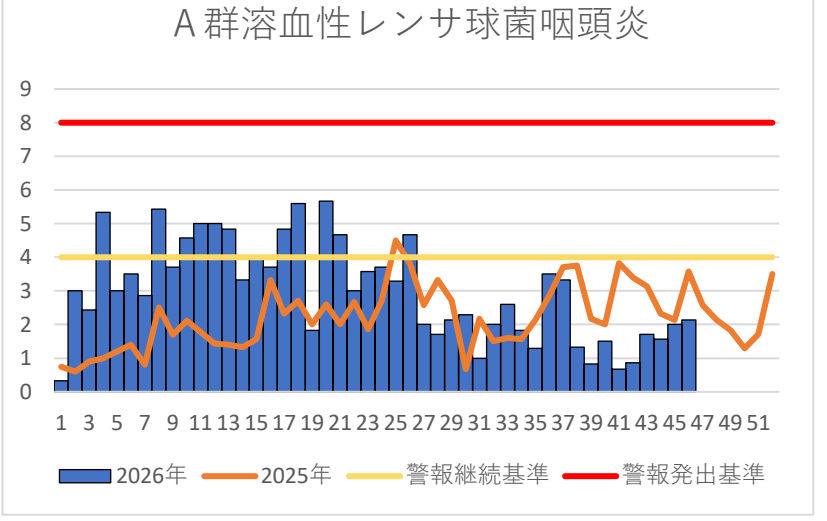
山城北保健所管内定点当たり報告数推移

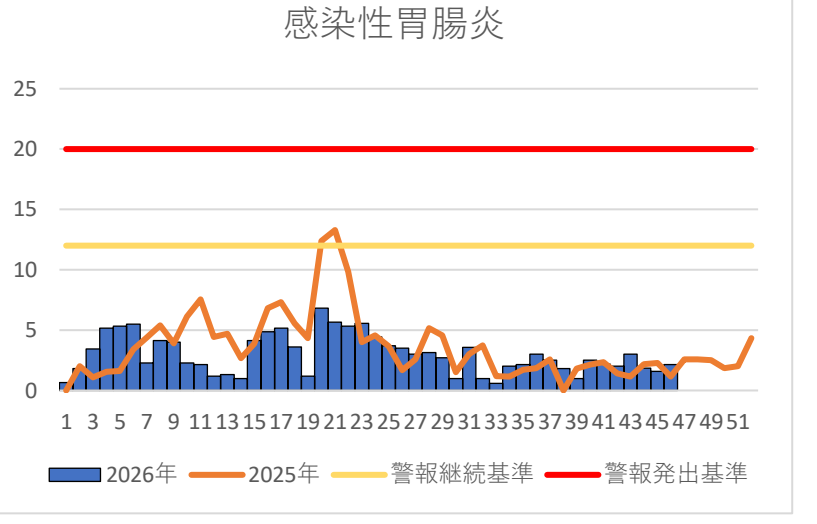


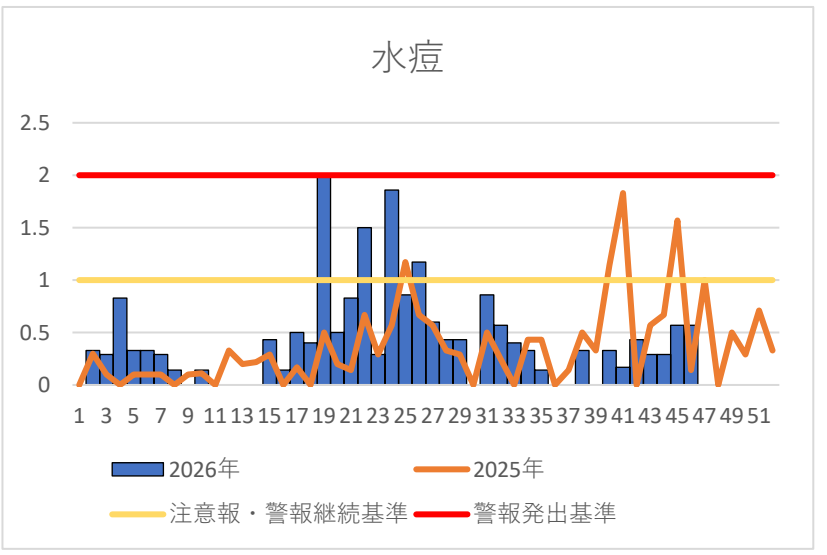


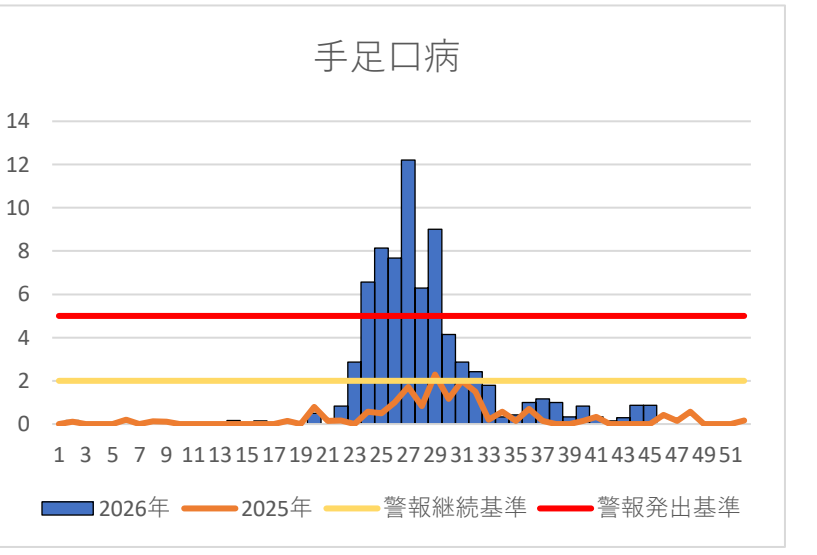


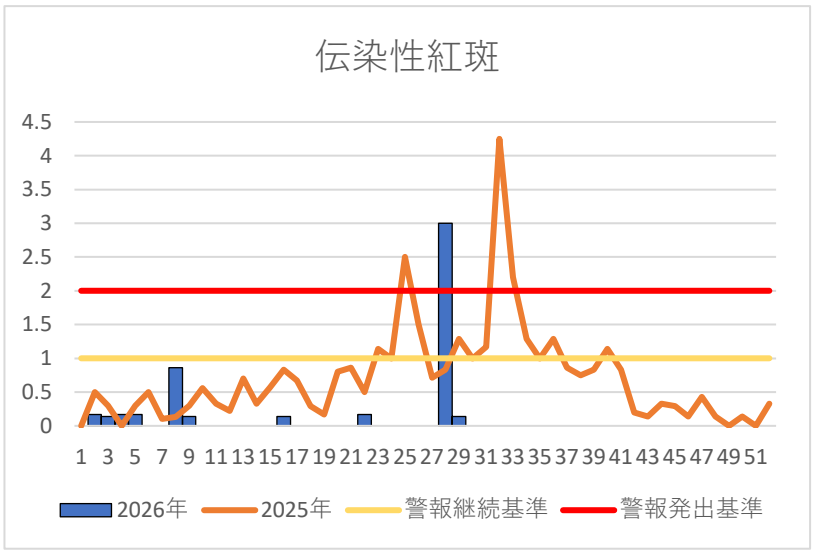


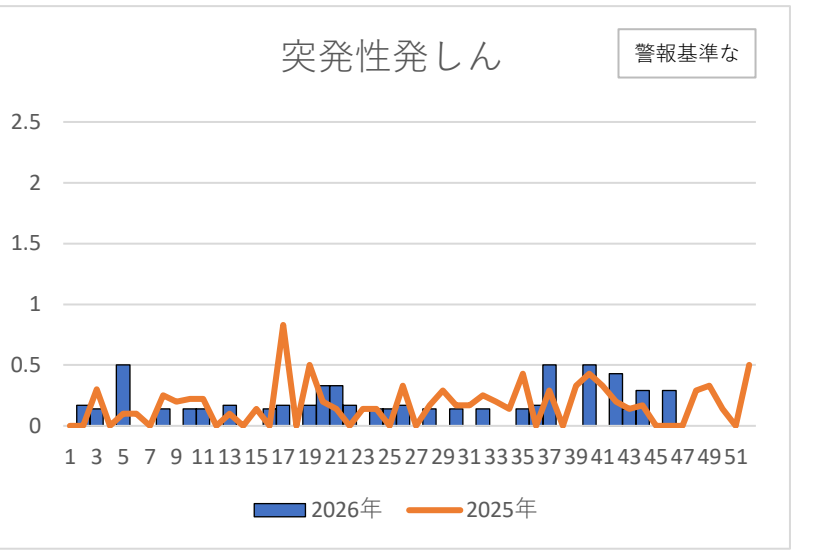


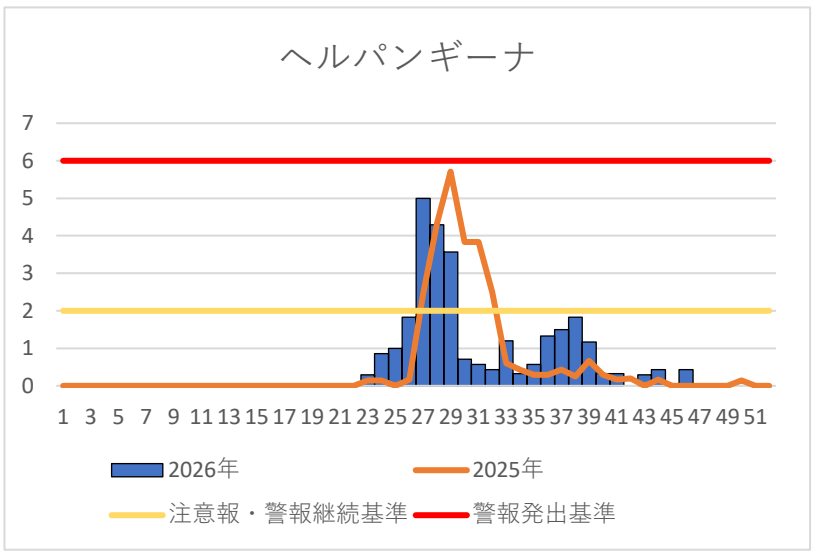


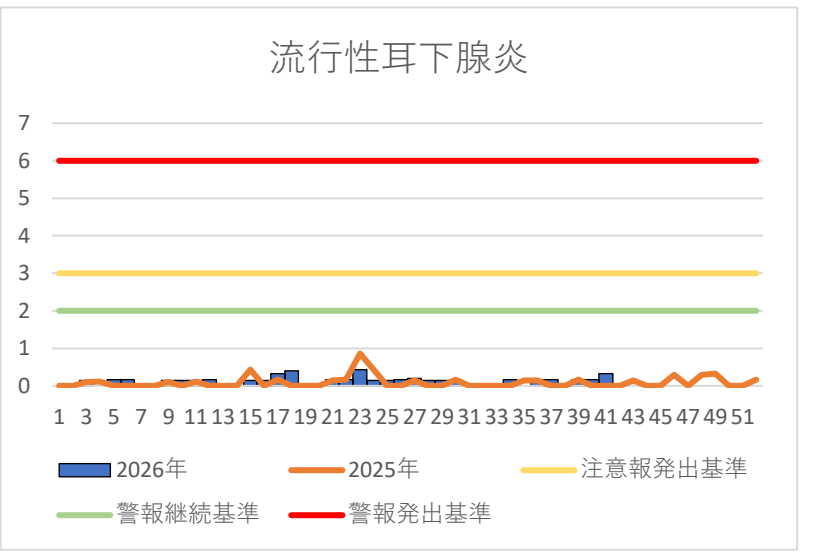


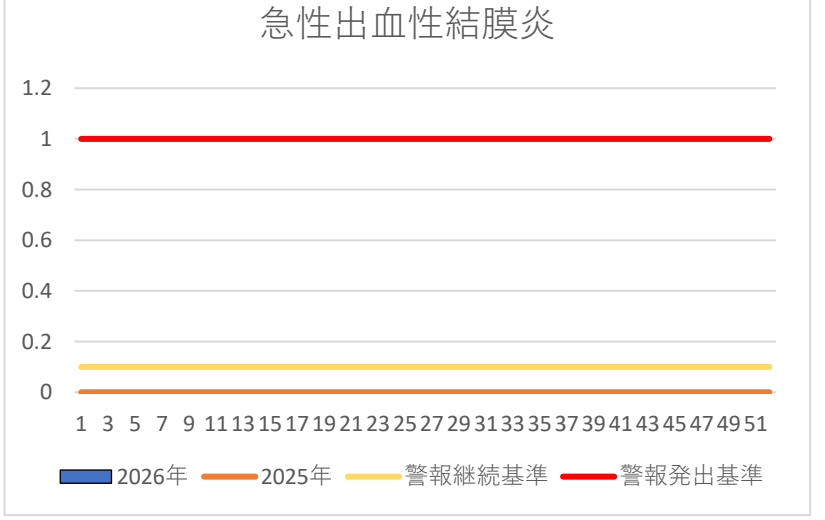


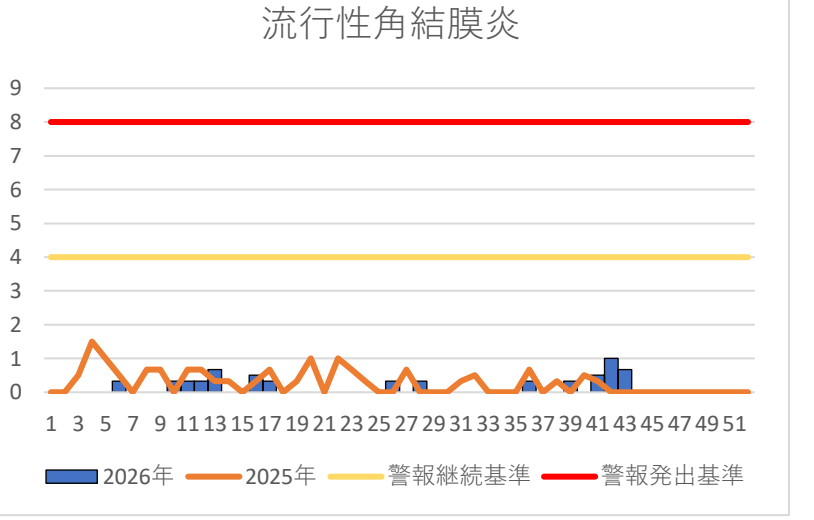












警　報：１週間の定点あたり報告数が、ある基準値（警報の開始基準値）以上の場合に発生します。
　　前の週に警報が発生していた場合、１週間の定点あたり報告数が別の基準値（警報の継続基準値）以上の場合に発生します。
注意報：警報が発生していないときに、１週間の定点あたり報告数が、ある基準値（注意報の基準値）以上の場合に発生します。

急性呼吸器感染症（ARI）とは

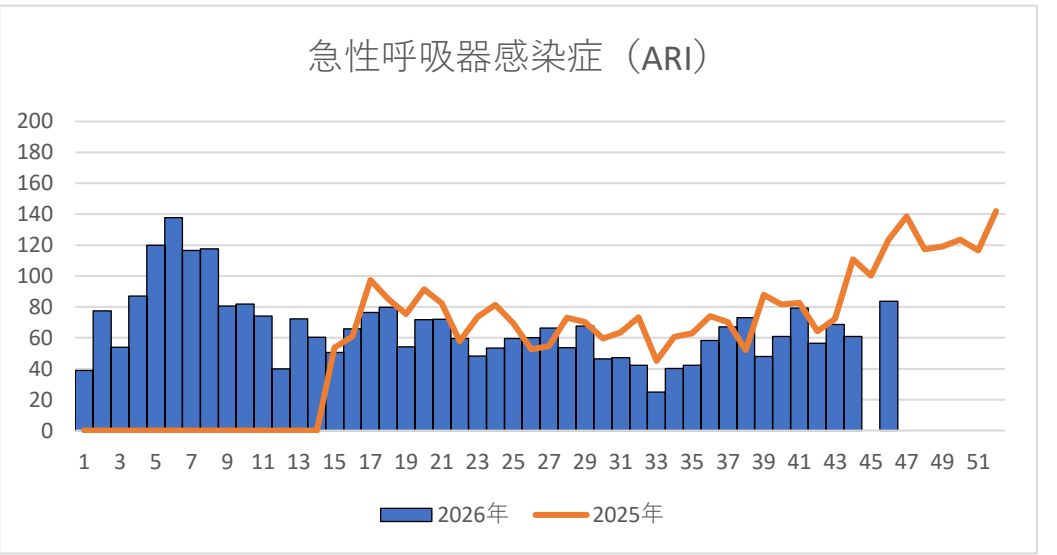
急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

令和7年4月7日からARIが感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。以下の症例定義（※）を満たす場合に報告対象となることから、インフルエンザやCOVID-19等と診断された場合でも、ARIの症例定義の症状があれば両方の報告対象となります。

※　咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁(びじゅう)、鼻閉(びへい)のいずれか1つの症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

	定点あたりの報告数（前週比）
急性呼吸器感染症（ARI）	83.71（1.19）

山城北保健所管内定点当たり報告数推移



※　急性呼吸器感染症：2025年4月7日から集計を開始　　https://www.pref.kyoto.jp/idsc/old/ari.html

参考：京都府感染症情報センター　京都府におけるARI発生状況